「社会にいいこと」を、
ビジネスへ。

官民共創

フロントふくい

福井の課題から、次のビジネスを。

官民共創フロントふくい　ご入会のご案内

01｜フロントふくいとは

地域が持つ力と、外からの新しい視点。その掛け合わせが、次のビジネスを生み出す。

幸福度日本一と評される福井にも、人口減少や少子高齢化、人手不足など、地域社会や産業が抱えるさまざまな課題があります。一方、福井には繊維、眼鏡、機械、化学などの産業で培われた高い技術力があり、企業や行政、地域の人々が顔の見える距離でつながる強みがあります。こうした地域の力に、県内外の企業が持つ新しい技術やアイデアを掛け合わせることで、これまでにない事業機会が生まれる可能性があります。

官民共創フロントふくいは、福井銀行と福井新聞社が共同で設立し、福井県と連携して運営する官民共創コミュニティです。

それぞれのネットワークを生かし、県内外の企業や行政、大学・研究機関、地域の人々をつなぎながら、ウェルビーイングの向上、地域循環型経済の実現、産業イノベーションなどにつながる共創を推進します。

地域の課題を新たな事業機会に変え、企業の成長と地域の豊かさをともに生み出す。
フロントふくいは、社会にとってGOODな共創プロジェクトを創出し、その事業化・社会実装を目指します。

「社会にいいこと」を、ビジネスへ。

02｜距離の近さが、共創を前に進める力になる。

顔の見える距離と、地域に根ざしたネットワークが、共創を加速させる。

県外企業が地域で新しい事業を生み出すには、地域の実情を知り、課題の本質を捉え、ともに取り組むパートナーと出会うことが欠かせません。

福井には、企業や行政、大学、地域の人々が顔の見える距離でつながる強みがあります。そこに金融・メディア・行政が持つネットワークを掛け合わせることで、地域の課題やその当事者、共創のパートナーへ、より早く、深くアクセスできます。
現場の声を聞き、課題の背景を理解し、異なる立場の視点を重ねることで、本質的な課題を見極めます。

課題との出会いから、本質の発見、パートナーとの対話、事業構想の具体化まで。
フロントふくいは、福井の距離の近さとネットワークを生かし、共創プロジェクトが生まれるまでの道のりを短くします。

03｜産・官・学・金・言をつなぐ共創基盤

事業性 × 社会性 × 公共性。異なる強みを掛け合わせ、地域課題をビジネスへ。

異なる立場から捉える三者の連携により、単一の業種・機関の視点に、地域の多様な主体と事業を考えられることが、このプラットフォームの価値です。

地域経済（企業）

地元大学

テーマに応じて、研究成果や専門知識を提供。

地域（地域課題）

フロントふくい

福井銀行

企業の経営課題、事業基盤を把握。事業の可能性や連携候補を見つけます。

事業性

×

福井新聞社

社会の変化を理解し、地域の共感を醸成。地域全体を巻き込みます。

社会性

×

福井県

地域課題や政策の視点を持ち、自治体や行政施策との接点をつくります。

公共性

04｜出会いを、事業の種へ。

単なる情報交換にとどまらず、「誰と、何に挑戦するのか」を具体化するところから共に考えます。

STEP 1
持ち寄る

企業の技術やサービス、ノウハウ、事業アイデアと、地域や企業が抱える課題を持ち寄り、共創のきっかけをつくります。

STEP 2
発見する

異なる業界や地域の視点を掛け合わせ、自社だけでは気づけなかったニーズや技術の新用途、事業機会を発見します。

STEP 3
つくる

誰のどのような課題を解決し、どのような価値を提供するのか。対話を通じて、挑戦する共創テーマを見つけます。

STEP 4
つなぐ

検討テーマに応じて、必要な企業や行政、大学、地域の現場などとの接続可能性を探り、次の取り組みにつなげます。

05｜出会いと対話から、新しい事業機会を。

セミナーやワークショップ、事務局との対話を通じて、自社の強みと地域の課題をつなぎ、共創の可能性を探ります。

セミナーで共創情報の発信

地域課題や地域企業の強みなどを、セミナーを通して定期的に情報発信。新しい事業機会に出会うきっかけをつくります。

月次ワークショップで交流

自社の課題や技術、ノウハウ、アイデアを持ち寄り、異業種や行政と定期的に対話。相互理解を深め、新しいニーズや連携の可能性を探ります。

事務局との相談・意見交換

事務局が会員企業の強みや関心を把握。相談や意見交換を通じて、取り組むテーマや事業構想を整理します。

共創パートナーとの接点づくり

テーマに応じて地域企業、行政、大学などとの接続可能性を探索。関係者との対話やプロジェクト化に向けた初期調整を行い、次の一歩を具現化します。

プロジェクト化に向けた支援

関係者と次の一歩を検討。継続協議、プロジェクト化、外部支援の活用など、進め方を具体化します。

06｜会員プラン

パートナー会員

探索

年会費 50万円

福井をフィールドに、新しい事業機会を「探索する」。

福井の地域課題や企業のニーズに触れ、自社の技術・サービスの新しい活用可能性や共創パートナーを探索するプランです。

主な提供内容

- 県内企業や行政に関する情報提供（月1回程度）
- 県内企業・大学・自治体等との接続・紹介検討
- 関連する補助金・支援制度等の情報提供
- 公式サイトでの企業紹介
- イベントや新聞広告等での企業ロゴ掲載

プラチナ会員

具体化・推進

年会費 200万円

事業機会を、共創プロジェクトとして「具体化・推進する」。

福井で取り組みたい構想を持つ企業が、対話やフィールドワークを通じてプロジェクト組成や事業化を目指すプランです。

パートナー会員のメニューに加え：

- 定期的な事業面談（月1回程度）
- 地域フィールドワークの調整（年3回程度）
- 共創プロジェクトの組成に向けた支援（情報提供など）
- プロジェクト組成時のプレスリリース対応

※会費・サービス内容は設計案です。特定企業とのマッチング成立、自治体との連携、実証実施、事業化等を保証するものではありません。

07｜福井から、新しいビジネスを

こんな関心はありませんか？

- 自社の技術やサービスを、新しい分野で生かせないか。
- 地域の課題から、新しい事業テーマを見つけられないか。
- 自社にはない技術や知見を持つ企業と、新しい価値を生み出せないか。

そのような関心があれば、具体的な事業計画が決まっていなくても構いません。
フロントふくいは、企業の皆さまが持つ強みやアイデアと、福井の地域課題、企業の技術や知見を掛け合わせ、新しいビジネスの可能性を探ります。

地域課題の解決が企業の成長につながり、企業の新しい挑戦が地域の豊かさを生み出す。
そして、福井から生まれたビジネスが、同じ課題を抱える国内外の地域へと広がっていく未来を、ともに目指します。

08｜福井を、共創の入口に。そして、前線へ。

フロントふくいに込めた3つの想い。

FRONT【入口】

何かを始めたいとき、
まず相談できる場所。

FRONTIER【挑戦・開拓】

可能性を切り拓き、新しいビジネスに挑戦する。

FRONT【前線】

福井を、内外にひらかれた
共創の現場（前線）に。

名称	**官民共創フロントふくい**
代表者	代表 長谷川 英一（株式会社福井銀行 取締役兼代表執行役頭取）
設立・参画	株式会社福井銀行、株式会社福井新聞社（連携：福井県）／設立：2026年9月30日
事務局所在地	〒910-8552 福井県福井市大和田2丁目801（株式会社福井新聞社内）
主な活動内容	地域課題解決プロジェクトの創出・伴走支援／企業・行政マッチング／セミナー・WS開催

まずは、御社が考える新しい事業の可能性について、
お聞かせください。

官民共創

フロントふくい

官民共創フロントふくい 事務局

Web：https://frontfukui.jp/ ｜ Mail：info@frontfukui.jp